

第 13 回防災文化講演会「津波研究のいまとこれから」を開催しました(2016/7/16)

テーマ：東日本大震災，熊本地震，津波防災，津波工学，災害情報，防災教育，避難行動，シミュレーション
URL：<http://irides.tohoku.ac.jp/organization/kesennuma/kouenkai.html>

7月16日(土)，気仙沼中央公民館(宮城県気仙沼市)において、「津波研究のいまとこれから～東日本大震災はどこまでわかったか，今後何に取り組むべきか～」をテーマに第13回防災文化講演会(主催：東北大学災害科学国際研究所，共催：気仙沼市)を開催いたしました。当研究所は2013年7月に「気仙沼市と国立大学法人東北大学災害科学国際研究所との連携と協力に関する協定」を締結するとともに，気仙沼分室(通称：気仙沼サテライト)を気仙沼市内に設置して，防災・減災や復興の推進に連携して取り組んできました。防災文化講演会はこのたび13回目となり，今回も地域の皆様との防災に関する情報交流を目的に開催いたしました。

今回の講演会では，前半を「東日本大震災の経験からわかったこと」，後半を「東日本大震災後に取り組んでいること」として，6題の研究報告・実践活動報告を行いました。前半の講演では，今村文彦所長(災害リスク研究部門)が東日本大震災の経験・教訓の継承や熊本地震での取り組みについて報告し，奥村誠副所長(人間・社会対応研究部門)は東日本大震災における津波からの避難に多数の車が使われた実態と危険性を提起し，山下啓助教(寄附研究部門)はスーパーコンピューター「京」を用いた津波土砂移動解析と被害拡大の様相について報告しました。後半の講演では，サッパシー アナワット准教授とリーラワット ナット研究員(災害リスク研究部門)が津波災害の建物被害データを用いた津波防災モバイルアプリの開発状況を紹介し，保田真理助手(災害リスク研究部門)は各地でさまざまな津波防災教育の取り組みを重ねていること，安倍祥助手(寄附研究部門)と大学院生の牧野嶋文泰氏(本学大学院工学研究科)は気仙沼市における津波避難シミュレーションや津波避難計画の取り組みについて報告しました。

今回の講演会は，全体で64名の参加をいただき，来場の方々からも様々なご意見・ご質問をいただいたほか，東日本大震災における体験談なども頂戴しました。

第13回防災文化講演会 講演内容

テーマ① 東日本大震災の経験からわかったこと

- 今村 文彦 「最近の災害等を経験した中での東日本大震災の教訓を繋ぐ役割」
- 奥村 誠 「自動車を用いた避難はどこまで有効か？」
- 山下 啓 「津波土砂移動がもたらした津波被害拡大の実態
ー京コンピューターを活用した数値シミュレーションで明らかにー」

テーマ② 東日本大震災後に取り組んでいること

- サッパシー アナワット，リーラワット ナット
「モバイルアプリケーションを用いた津波防災ツール
ー東日本大震災による気仙沼市における被害データを利用した例ー」
- 保田 真理 「災害に強い地域づくりー災害への理解と備えー」
- 安倍 祥，牧野嶋 文泰
「気仙沼市での津波避難シミュレーションと，地域でつくる津波避難計画」

次回の防災文化講演会は，9月17日(土)午後，同じく気仙沼中央公民館を会場に「生活の楽しみであった生業の復興」のテーマで開催する予定です。以降は，11月19日(土)，2017年1月21日(土)の開催を計画しています。皆様よろしければぜひご参加ください。

文責：安倍 祥(寄附研究部門)
(次頁へつづく)



講演1
今村文彦 所長



講演2
奥村誠 副所長



講演3
山下啓 助教



講演4
サッパシー アナワット准教授,
リーラワット ナット 研究員



講演5
保田真理 助手



講演6
安倍祥 助手,
牧野嶋文泰 氏



講演会場の様子